第46回コンクリート工学講演会 | A. 材料・施工 | 新材料・新工法（材料）

新材料・新工法（材料）1

座長:梅本宗宏(土木),唐沢智之(建築)
2024年6月27日(木) 09:00 ～ 10:30 第1会場 (小展示室A)

[1349]バガスリグニンを利用したボタニカルコンクリートの基礎的研究

平城有梨[1], 富山潤[2], 山本直人[3], 中村弘一[4] (1.極東興和 2.琉球大学 3.Curelabo 4.バイオアパタイト)

キーワード：バガス、リグニン、ボタニカルコンクリート、曲げ強度、耐水性

沖縄県ではサトウキビ産業が盛んに行われており，製糖過程で年間約20万 tの搾りかす(バガス)が排出されている。その活用方法は製糖工場の電力供給として工場内の火力発電燃料以外に，衣類，食品などのバガス製品が複数あるが，限定的なものとなっており，さらなるリサイクルが課題である。本研究では，ボタニカルコンクリートの原材料として，バガスに含まれるリグニンの適用性を検討するため，バガスを原料としたボタニカルプレート，ボタニカルコンクリートを製作し，曲げ強度特性および耐水性に関する基礎的な検討を行った。その結果，曲げ強度特性は良好な結果を得たが，耐水性について課題が残る結果となった。

©公益社団法人 日本コンクリート工学会